

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
<ul style="list-style-type: none"> • 社会生活に必要な国語の知識や技能 • 我が国の言語文化に親しんだり理解したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> • 論理的に考え、深く共感したり豊かに想像したりする力 • 自分の思いや考えを広げたり深めたりする力

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> • 文字を美しく正しく書く意識の希薄な生徒がいる。また、思い浮かんだまを文章にしてしまい、文節同士の関係や主・述の整合の不明瞭な文章を書く生徒が多い。ア • 作文力は平均して高い方だと考えられる。その分、論理的に考え、根拠も明確にありながら、それを的確に説明できる作文力と口述力が伴っていない生徒が目立つ。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 毎時行う漢字ミニテストで随時注意喚起と指導を行い、その到達度を単元漢字テストで確かめる。未達成者を対象に追試も行う。 • 段落の役割に着目しながら文章を読ませ、事実やそれを基に考えたことを、内容・表現とも曖昧にせず表現する活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 9月～ • 9月～ 	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> • 漢字を正しく使用する力や語句に関する知識に課題がある。ア • 自分の考えや解答を文章に記述して表現する力に課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 単元ごとに漢字テストを行う。漢字の訓に留意し、熟語の意味を捉えさせる。対義語や類義語などについて理解して使うことで、語感を磨き、語彙を豊かにさせる。 • 自分の考えを書く時間を授業中に多く設け、提出・添削を行う。また、互いの文章を読み合い、他者の表現から学ぶ機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 4月～ • 5月～ 	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> • 学習した漢字や語句、文法に関する知識を、自らの表現に生かすことに課題がある。ア イ • 読むこと、書くことにおいて具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することに課題がある。イ 	<ul style="list-style-type: none"> • 自分自身の文章を読み直して、表現が適切かつ効果的であるか確認させる。互いの作品を読み合い、他者の表現から学ぶ機会を設ける。 • 説明的な文章を読んだり、書いたりする時に自らの知識や経験と結び付け、自分の考えを深めさせる。抽象的な概念を表す語句の知識量を増やさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 4月～ • 4月～ 	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1年 自分の考えを相手に分かりやすく伝える。端末を活用して課題を提出し、作品を読み合い学びを深める。</p> <p>2年 課題に対して自分やグループの意見を提出し、共有する活動の補助を行う。視覚資料による文章理解の補助。</p> <p>3年 端末を活用して課題を提出し、互いの考えや作品に対する意見を述べ合い学びを深める。視覚資料による文章理解の補助。【</p>	<p>1年 授業ごとにめあてを明確にし、ノート指導を通じて振り返りや自主学習の指導を行う。</p> <p>2年 授業ごとにめあてを明確にし、ノート指導を通じて振り返りを行う。</p> <p>3年 授業ごとにめあてを明確にし、ノート指導を通じて振り返りを行う。</p>

